



<http://www.cfp-japan.jp/>

カーボンフットプリントガイドブック 2009-2011

# カーボンフットプリント ガイドブック 2009-2011

経済産業省

123g

CO<sub>2</sub>



## 目次

|                     |     |
|---------------------|-----|
| カーボンフットプリント概要       | 2   |
| 製品紹介                |     |
| ■ 1. 食品関連           | 13  |
| ■ 2. 生活用品           | 29  |
| ■ 3. 衣料関連品          | 49  |
| ■ 4. 印刷関連           | 61  |
| ■ 5. オフィス関連品        | 73  |
| ■ 6. 土木・建築関連        | 85  |
| ■ 7. その他産業用         | 91  |
| CFPマーク使用許諾製品一覧      | 93  |
| カーボンフットプリント紹介WEBサイト | 100 |

## はじめに

「低炭素社会」の実現は我が国にとっても、また国際的にもきわめて重要な課題のひとつです。カーボンフットプリント制度は、平成20年7月29日に閣議決定された「低炭素社会づくり行動計画」において、「見える化」の一つとして、商品及びサービスのライフサイクル全体で排出される温室効果ガスをCO<sub>2</sub>量に換算し、表示する制度としてスタートいたしました。

経済産業省では、平成21年度よりカーボンフットプリント制度構築に向け、関係省庁との連携のもと、カーボンフットプリント制度試行事業を推進してきました。当試行事業では、カーボンフットプリント商品及びサービスの市場導入実験や制度の更なる精緻化等を行うことで、CO<sub>2</sub>排出量の「見える化」を実現し、企業の温暖化対策の取組促進を通して、低炭素型の産業構造への変革と、消費者が企業の温暖化防止対策を評価する仕組みの整備を目指してきました。

また、試行事業を通じ浮き彫りになった課題を踏まえ、ルールのさらなる改善及び精緻化、そしてISOによる国際標準化の議論への積極的な参加も進めてきました。

平成21年度より開始されたカーボンフットプリント制度試行事業も、平成23年度（2012年3月末）にて終了する運びとなり、当ガイドブックにこれまでの制度精緻化等の概要と、多くの事業者の皆さまに御協力いただいた市場導入実験の成果をまとめました。今後のカーボンフットプリント制度のさらなる普及・発展に向けて、このガイドブックがカーボンフットプリントに取組まれるすべてのの方々にとって一助となれば幸いです。

経済産業省

# カーボン フットプリントとは…

ご存知ですか?

カーボンフットプリント。その意味、その意義。

私達が購入、消費している全ての製品(商品・サービス)は、その製品がつくられてから捨てられるまでの「製品の一生(製品ライフサイクル)」を通して多くのエネルギーを必要とします。そのエネルギーは、主に石油や石炭、天然ガスなど化石燃料から得られ、地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>を大気中に排出しています。

カーボンフットプリント(Carbon Footprint of Products)とは直訳すると「炭素の足跡」。製品のライフサイクルの各過程で全体で排出された「温室効果ガスの量」を合算して排出全体量を算出し、それをCO<sub>2</sub>排出量に換算したものです。

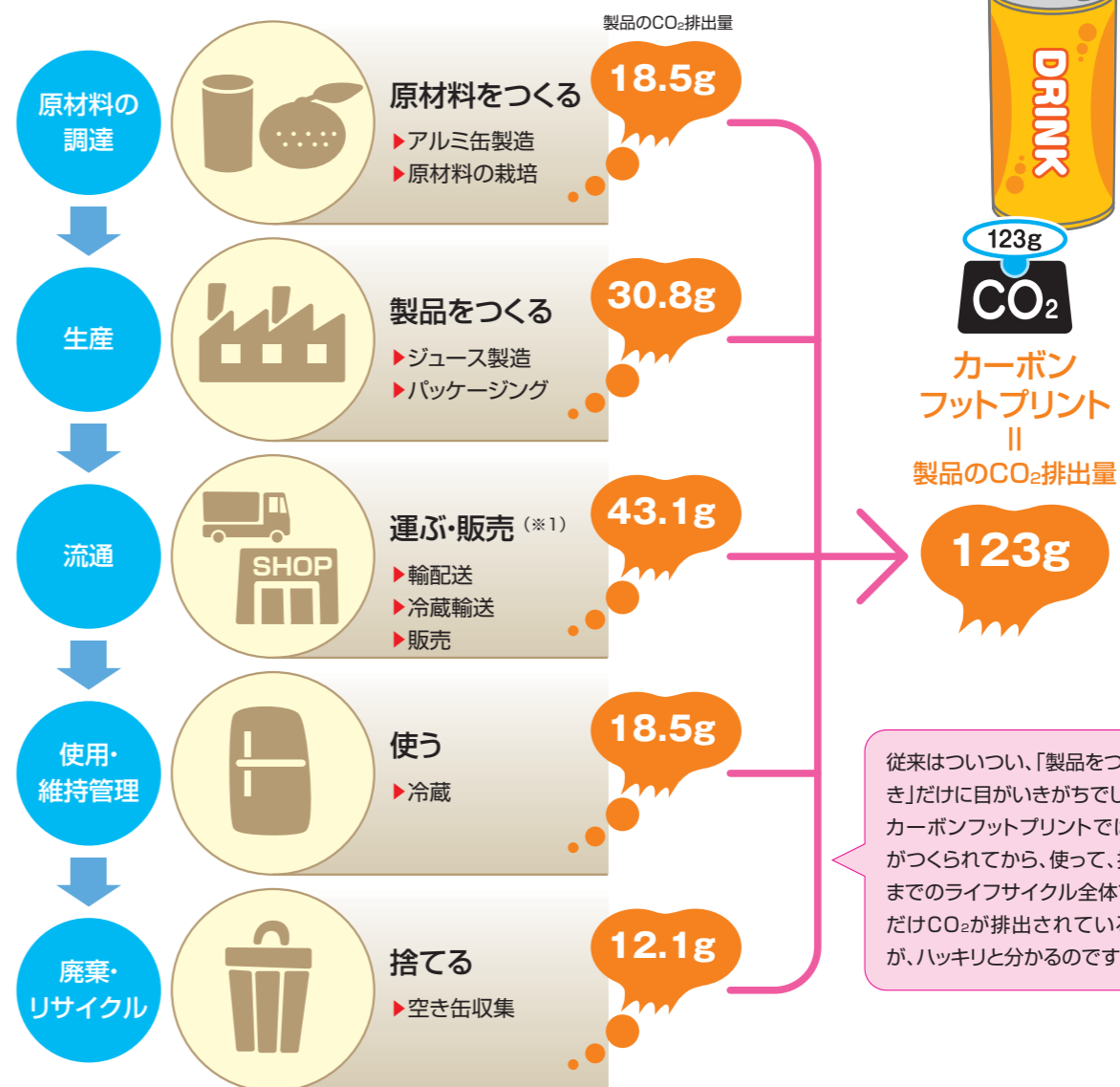
「製品の一生(製品ライフサイクル)」を通して算出するのがポイント!



Point

カーボンフットプリントとは、直訳すると「炭素の足跡」です。「どこ」で「どれだけ」CO<sub>2</sub>排出されたかを「見える化」したものです。

みかんの缶ジュースのライフサイクルを例に考えてみましょう!



(※1) 試行期間中は、暫定的に「販売段階」の算定を対象外としています  
※数値は全て仮定です

従来はつい、「製品をつくる時」だけに目がいきがちでしたが、カーボンフットプリントでは製品がつくられてから、使って、捨てるまでのライフサイクル全体でどれだけCO<sub>2</sub>が排出されているのかが、ハッキリと分かるのです。

Carbon  
Footprint

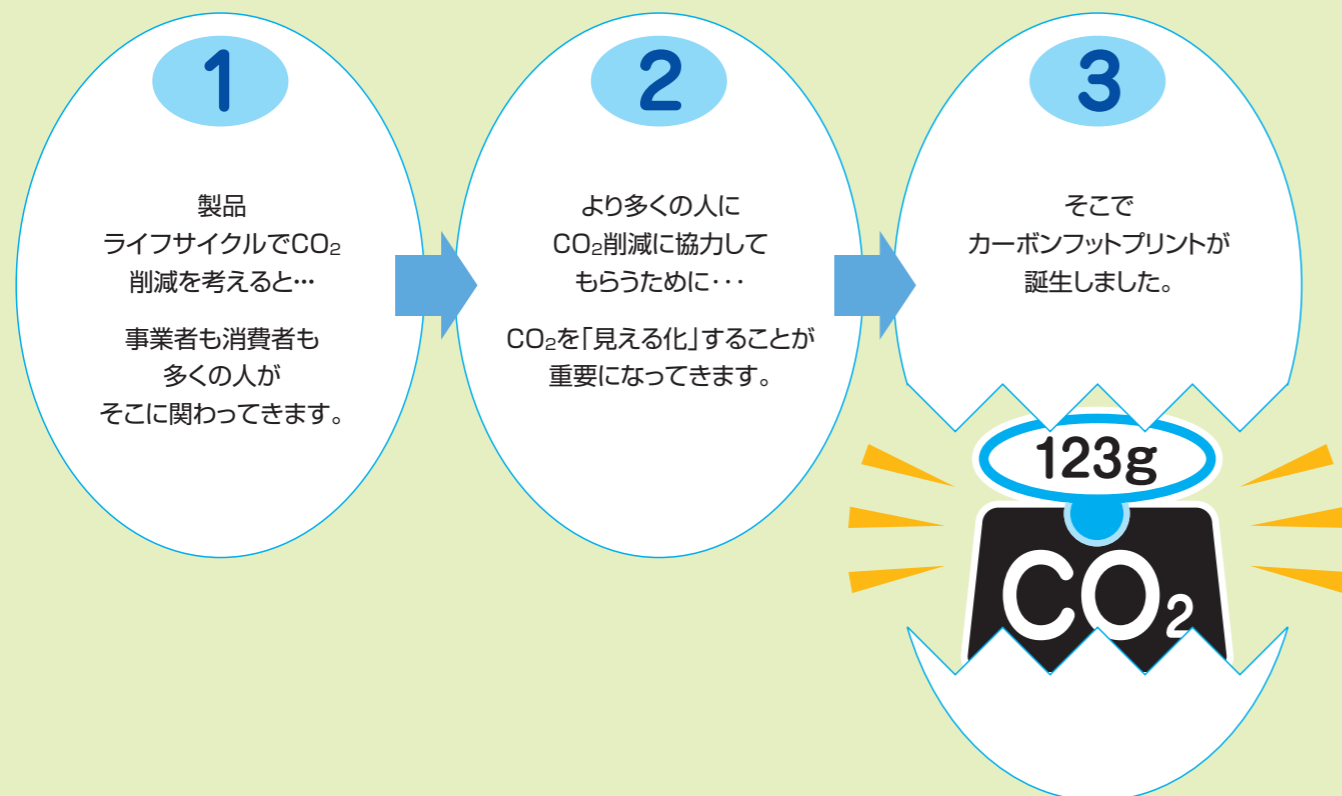
# カーボン フットプリント誕生の背景

## より多くの人に、CO<sub>2</sub>削減に協力してもらうために。 カーボンフットプリントは誕生しました。

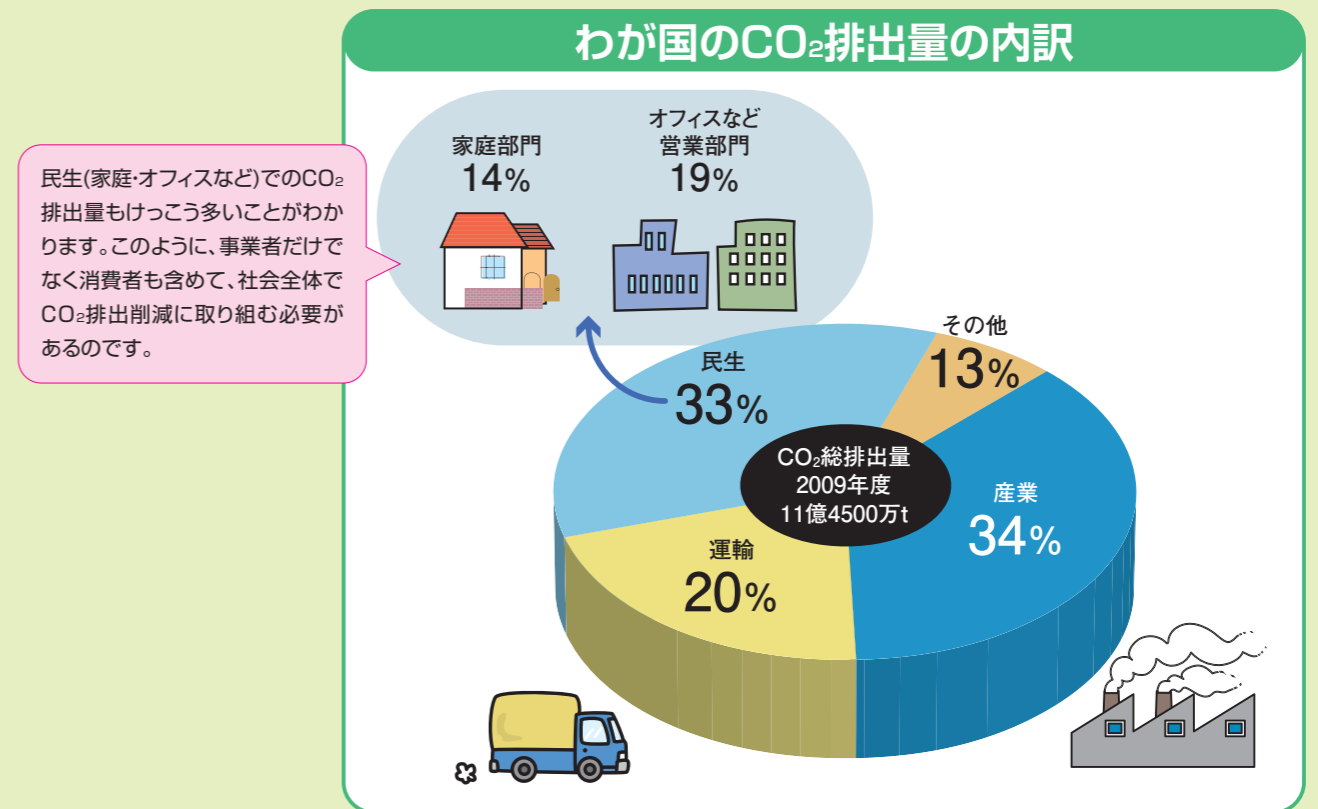
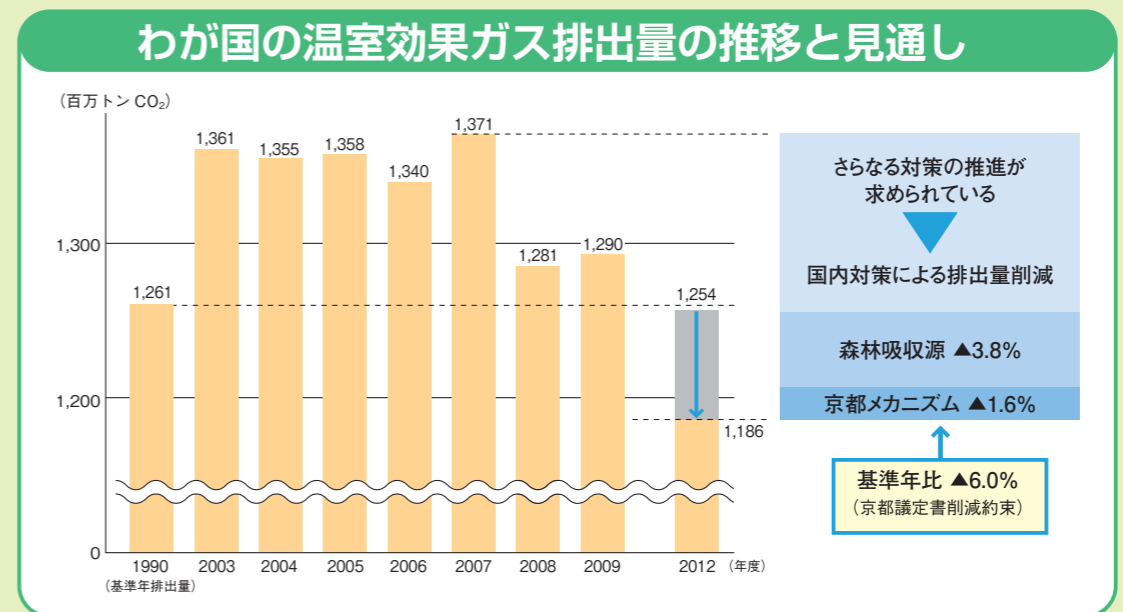
日本は、京都議定書で2012年までに、国内の温室効果ガス排出量を1990年比で6%削減することを約束しています。この目標達成のための具体的な方策として、製品のCO<sub>2</sub>が見える化するカーボンフットプリントの仕組みづくりへ向けた議論がスタートしました。

製品のライフサイクルには、製造する事業者だけでなく、原材料の調達、生産、流通、使用・維持管理、廃棄・リサイクルの段階などで多くの事業者が関わり、さらに消費者もその製品を使用し、廃棄・リサイクルする段階で関わっています。カーボンフットプリントは、製品をテーマに、事業者だけでなく消費者も一緒に、温室効果ガス排出削減に向けて考え、取り組んでいくためのツールなのです。

## CO<sub>2</sub>という見えないものを 「見える化」するための「共通のものさし」、 それがカーボンフットプリントです。



**Point** カーボンフットプリントは、CO<sub>2</sub>削減に  
みんなで一緒に取り組むための、  
ツールとして生まれました。



出典：環境省「平成21年度(2009年度)の温室効果ガス排出量(確定値)について」

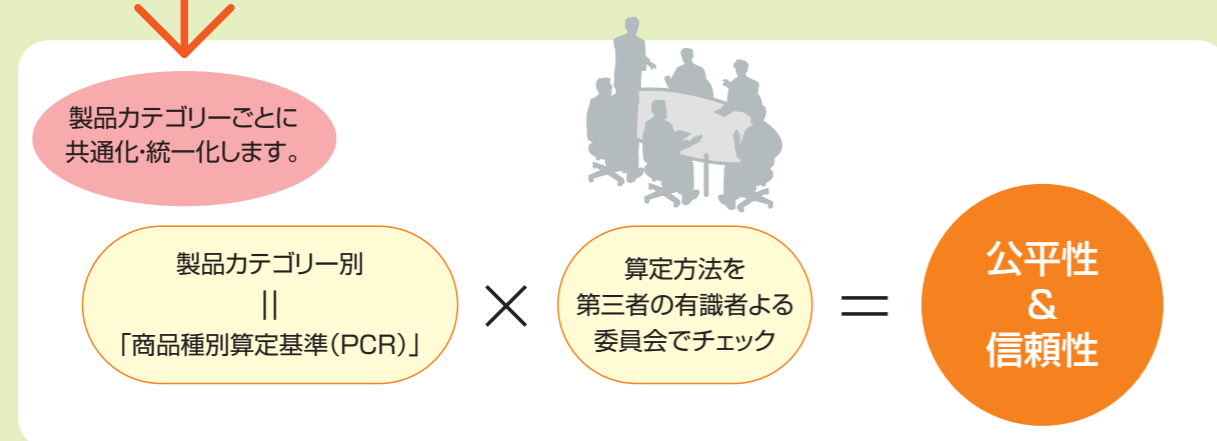
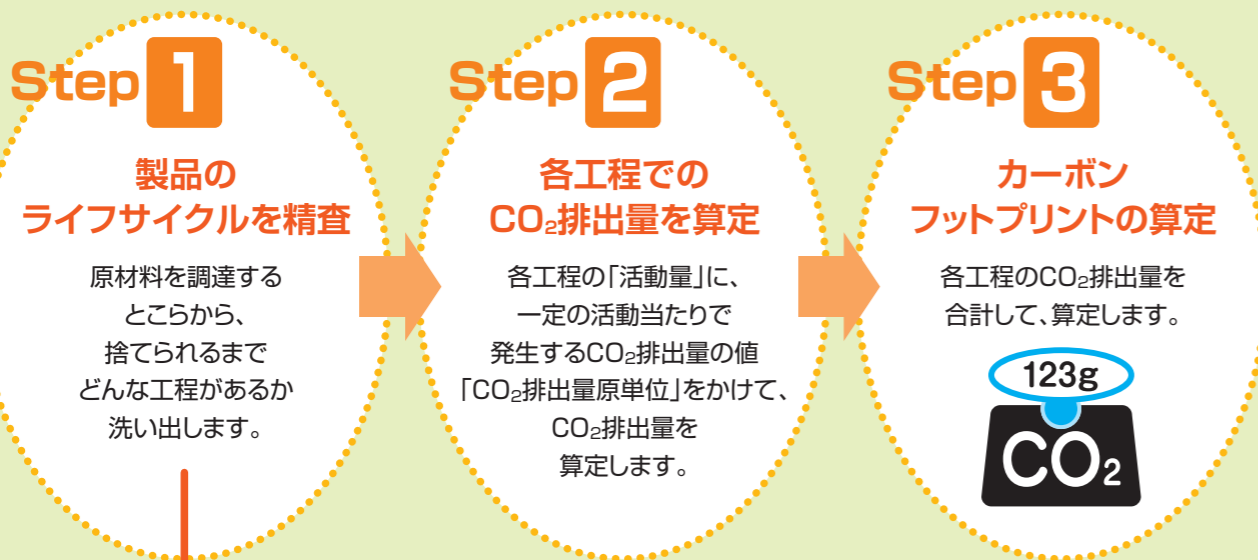
# Background

# カーボン フットプリントの算定方法

## PART 1

CO<sub>2</sub>を「見える化」するために。  
カーボンフットプリントは  
算定方法の統一化を図っています。

カーボンフットプリントは製品カテゴリーごとの算定方法のルールを決めた「商品種別算定基準(PCR=Product category rule)」に基づいて算定しています。  
さらに、その算定方法を第三者の有識者による委員会でチェックすることで、公平性及び信頼性を担保するシステムを構築しています。



Point

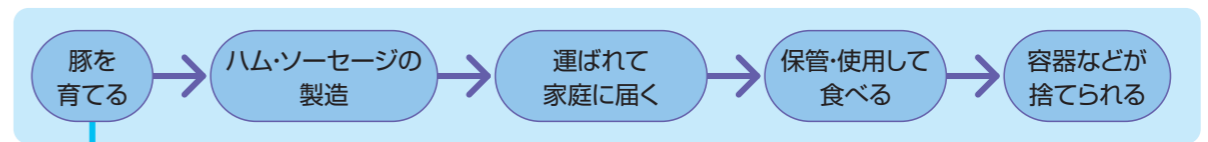
算定のための共通ルールをつくりだすことで  
各製品が一定のルールで  
カーボンフットプリントを  
算出できるのです。



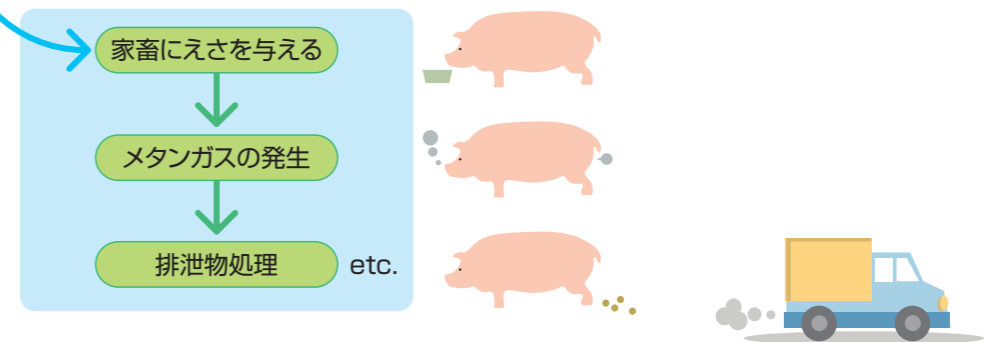
ハム・ソーセージを例に考えてみましょう!

※下記は「考え方」を紹介する事例です。  
省略等もあり詳細算定方法とは合致していません。

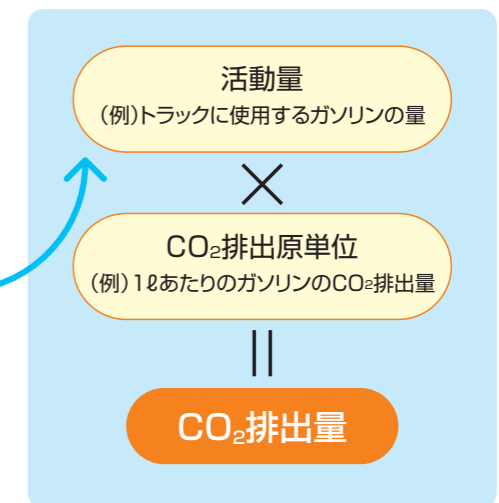
Step 1 ①まずライフサイクル全体はこのようになります。



②さらに各工程を詳しく洗い出していきます。



Step 2 一定の活動当たりで発生するCO<sub>2</sub>排出量の値「CO<sub>2</sub>排出量原単位」をかけて、CO<sub>2</sub>排出量を算定します。  
たとえば輸送にトラックをつかえば...



Step 3 各工程のCO<sub>2</sub>排出量を合計してカーボンフットプリントを算定します。

各工程を詳細に洗い出していくことにより、「ライフサイクルフロー図」が完成します。  
次項にてご紹介します。

PCR  
Product category rule

# カーボン フットプリントの算定方法

## PART 2



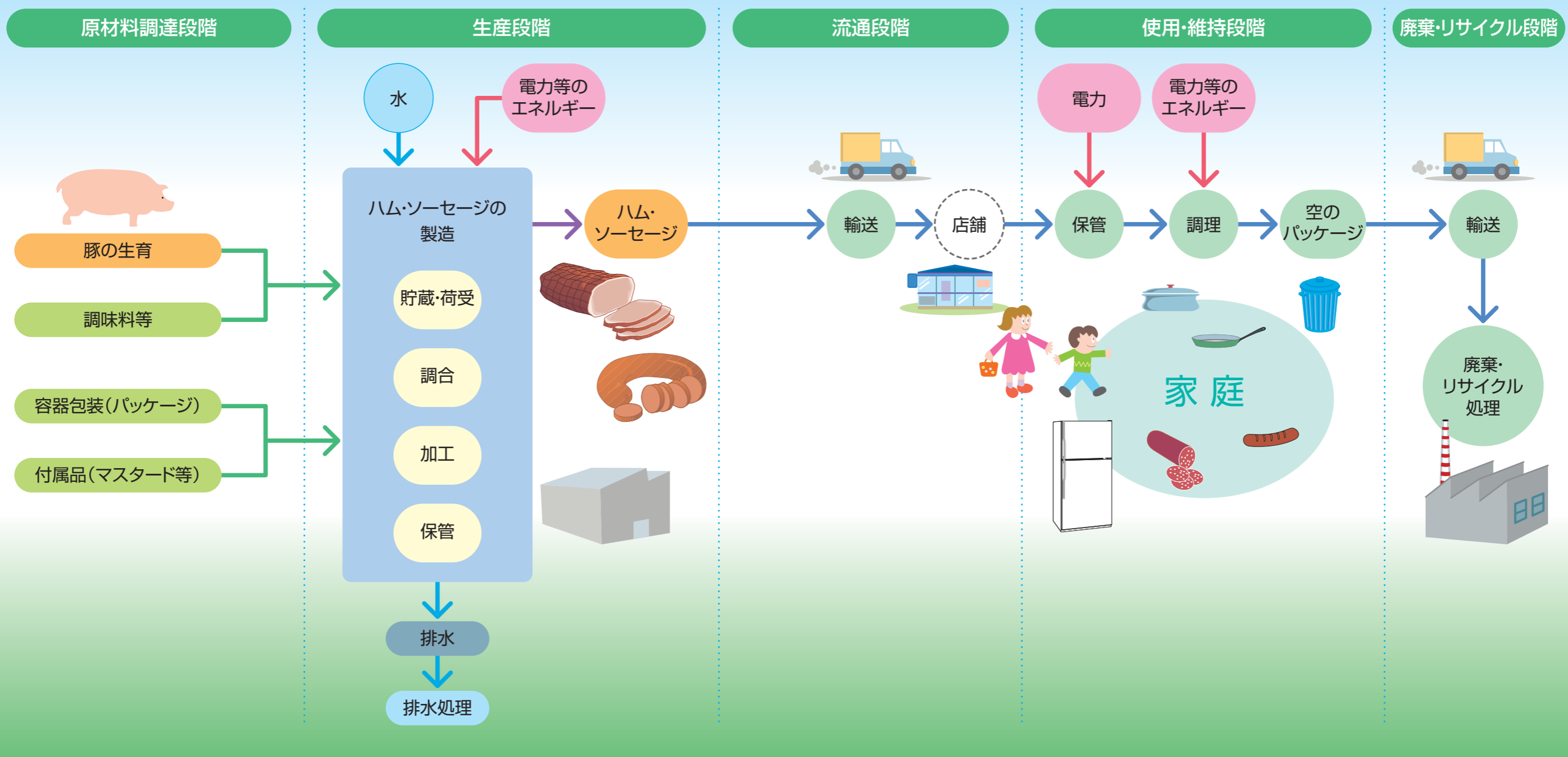
Point

ライフサイクルフロー図を含めた「商品種別算定基準(PCR)」はWEBサイトに掲載され、透明性を担保するとともに、今後カーボンフットプリント算定を検討される事業者の方々にも閲覧いただくことが可能になっています。

### ハム・ソーセージの ライフサイクルフロー図 (イメージ図)

#### ライフサイクルフロー図とは…

前項でご説明した通り、製品の原材料を調達するところから廃棄・リサイクルされるまで、どんな工程があるかを詳細に洗い出していくことで、製品ライフサイクルフロー(流れ)図ができあがります。



※流通段階における「店舗販売のプロセス(図の点線枠部分)」は、暫定的に算定の対象外としています。  
※一部、PCRのライフサイクルフロー図を省略して図示しています。

# 未来へ 広げよう カーボンフットプリント

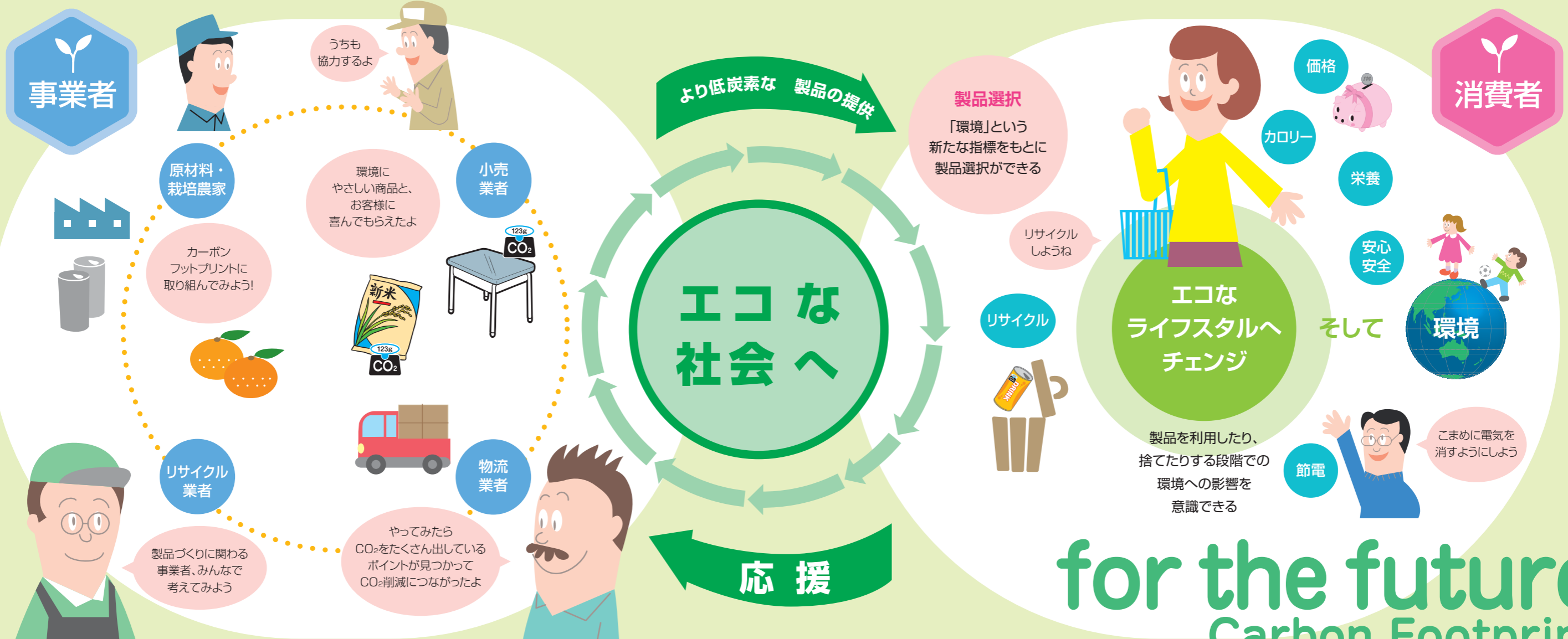
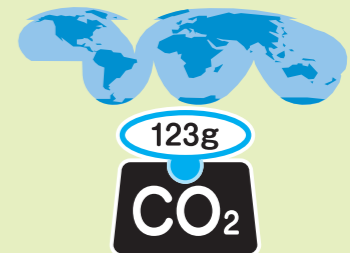
**Point** カーボンフットプリント  
みんなの気づきで  
エコな社会へ

## みんなで広げていきませんか？ カーボンフットプリントを活用して、エコな社会へ。

カーボンフットプリントマークによって、消費者の方々は「環境」という新たな指標をもとに製品を選択できるようになります。また、事業者の方々にとっては当マークは「環境経営」「CSR(企業の社会的責任)」のひとつの指針としてもご利用いただけます。  
カーボンフットプリントをもっと、もっと広げていくことで、みんなと一緒に「エコな社会づくり」に参加する未来をつくりだせるのです。これからも、カーボンフットプリントマークを是非、応援してください。

## 世界へ広がる カーボンフットプリント

カーボンフットプリントはイギリスやフランス、ドイツなどをはじめとする欧州各国、アメリカ・カナダの北米、アジア・オセアニアエリアなど、世界中でその取り組みが進められています。  
そのような動きと連動して、ISO 14000シリーズのひとつとして、カーボンフットプリントの国際規格化が進められています。



for the future  
Carbon Footprint